

会派の論理 鈍る追及

見えない議会

かながわ統一地方選

3

藤沢市議会の議会運営委員会で、「土地問題」の審議が続いていた。原田伴子市議(48)はこの場にいたが、一人会派のため委員にはなれず、正式な発言権もなかった。

この問題を知られば知るほど、疑問がわいてきた。市に資料を請求したが、重要な部分は真っ黒。「説明責任を果たすつもりがないのか」と脱力感を感じた。

この1年半、市議会は土地問題に揺れた。海老根靖典市長が市土地開発公社に約1億1千万円で取得させた約1800平方メートル。購入経緯の不透明さを指摘する声が相次ぎ、問題を追及する百条委員会の設置が議会の争点となった。

土地は03年に約3千万円で売買されていたが、なぜか1億円以上で購入されていた。市議があっせんしたとの情報も流れていた。

原田市議は1期の議員を中心に、百条委の必要性を説いて

市民感覚と距離 残る疑念

藤沢土地問題

藤沢市土地開発公社が市の依頼で2009年1月、年度当初計画になかった善行地区の農地を先行取得した。取得

てまわった。心情的に同調する議員もいたが、「市長与党だから」「会派に従う」と反対にまわる議員もいた。「会派に縛られてチェック機能が果たせないなんて、何のための議員なのか」。情けなさを感じた。

市川和広市議(39)も、議会の姿勢に釈然としなかった。「これが問題でないとしたら何が問題なのか」

衆院議員の秘書を経て市議になった。所属の最大会派は議論の末、百条委設置に反対

理由や利用計画で不自然な点が指摘され、地方自治法100条による調査特別委員会(百条委)の設置などをめぐり議会が紛糾した。この問題が起こってから、同市議会で

することを決めた。新米議員で「市長与党」の会派の方針に背くことに揺れた。先輩議員から説得もされたが「これを不問にするなら、自分は議員に向いていない」。

土地をめぐる市幹部の発言は食い違い、疑義が深まる中、百条委設置の可否が3度、本会議ではかられた。

3度とも原田市議は賛成。百条委に誰が賛成し、反対したか、ポスターに議員名を書いて、問題の土地のある地域に張り出した。選管から注意

は9人が会派を変わった。

開国博 Y150

横浜開港150周年を記念し、09年4月から153日の会期で開かれた。500万人

されたがやめなかった。

一方、市川議員は1度目は退席。2度目は賛成。3度目は再び席を立った。「会派の必要性は感じるし、会派に従った方が楽。だけど、自分は市民に投票してもらっている」

約25億円の赤字を抱えて2009年秋に終わった横浜開港150周年イベント「開国博 Y150」。

赤字穴埋めのため、12月の横浜市議会に12億円余を投入

の有料入場者数を見込んだが124万人にとどまり、赤字が膨らんだ。開国博を進めた中田宏前市長は任期途中に辞任、担当副市長も閉幕後すぐに辞任した。

する補正予算案が出た。質疑に立った無所属クラブの伊藤大貴市議(33)は市長や市議に訴えた。

「赤字補填のため補助金を出すなら、市と議会は報酬力ツトなど市民に分かる形で責任をとるべきだ」

無所属クラブの6市議が考えた苦肉の策が、補正予算案からY150関連の議案を切り離す修正動議だった。自民公3会派が7割以上で、3会派の賛同なしに勝ち目はなかった。

本会議や委員会でも、3会派は「ちゃんと責任論を議論したのか」「赤字補填に公益性はあるのか」「なぜ今になって追加支援なのか」と厳しい言葉で市幹部を責め立てた。

伊藤市議も「もしかしたら」と期待を抱いた。

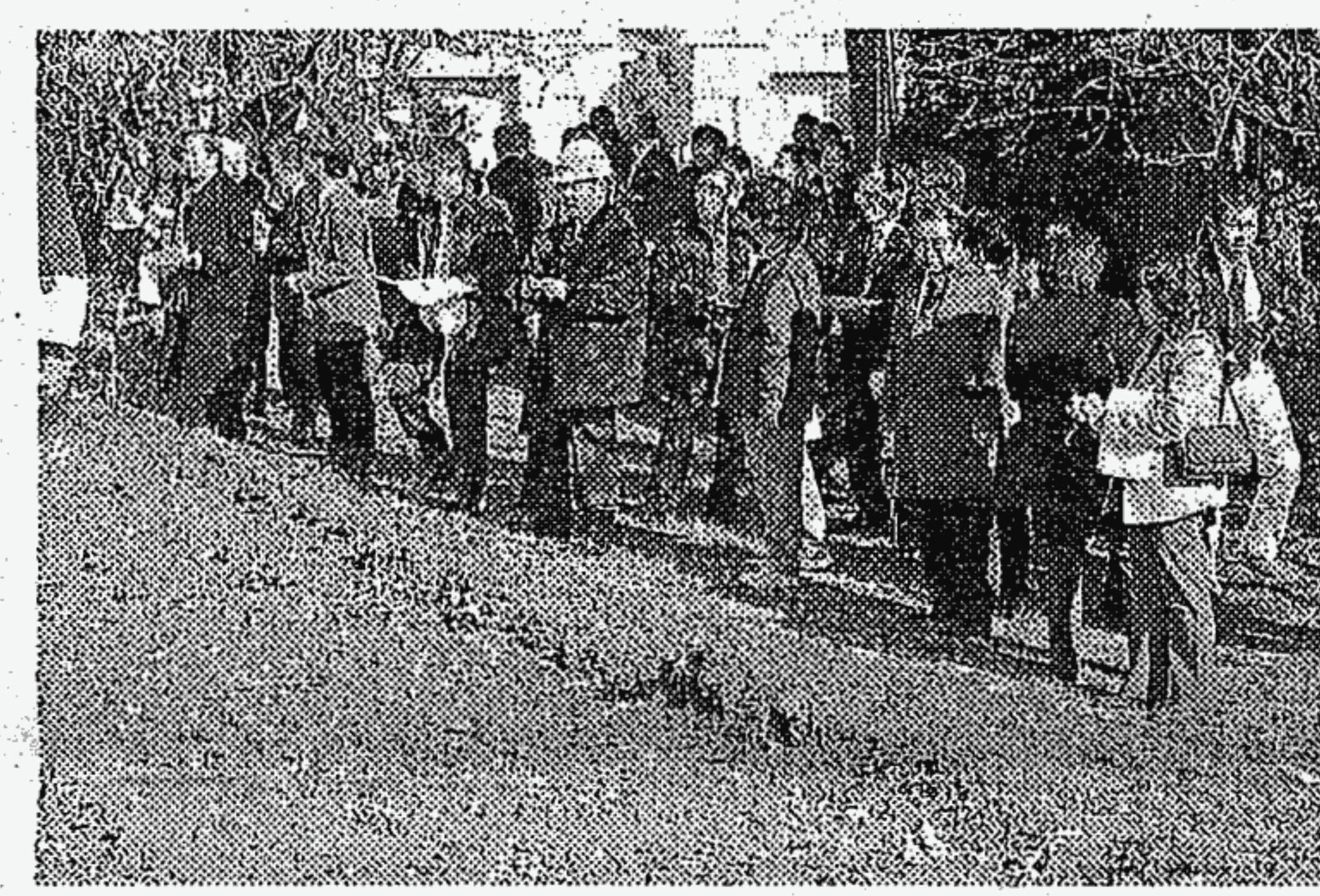
最終日の16日、伊藤市議は動議の趣旨説明のため再び壇上に。「責任の所在を明らかにすることが市と議会が取るべき最低限の役割だ」

結果はあつげなかった。自民公は賛成討論で赤字補填を擁護し、離反者もなく補填に賛成。修正動議も退けた。

賛成した市議らは「苦役の選択」と繰り返す。伊藤市議らは「落としどころを考えろ」と陰口もたたかれた。失敗の原因を明らかにする機会が失われた。



藤沢市議会でパネルを掲げて土地取得の必要性を訴える海老根靖典市長＝2009年12月11日



問題となった土地を視察する藤沢市議ら＝藤沢市善行6丁目

自身のホームページに「議員の使命は何なのか。むなしさだけが残る議会となりまじた」と書き込んだ。

経済誌記者から市議になつて4年、市民との接点を求めて駅頭に立ち続けた。「市民の思いと議会に隔たりがあつていいはずがない。市民の思いを無視すれば、簡単に見捨てられてしまう」